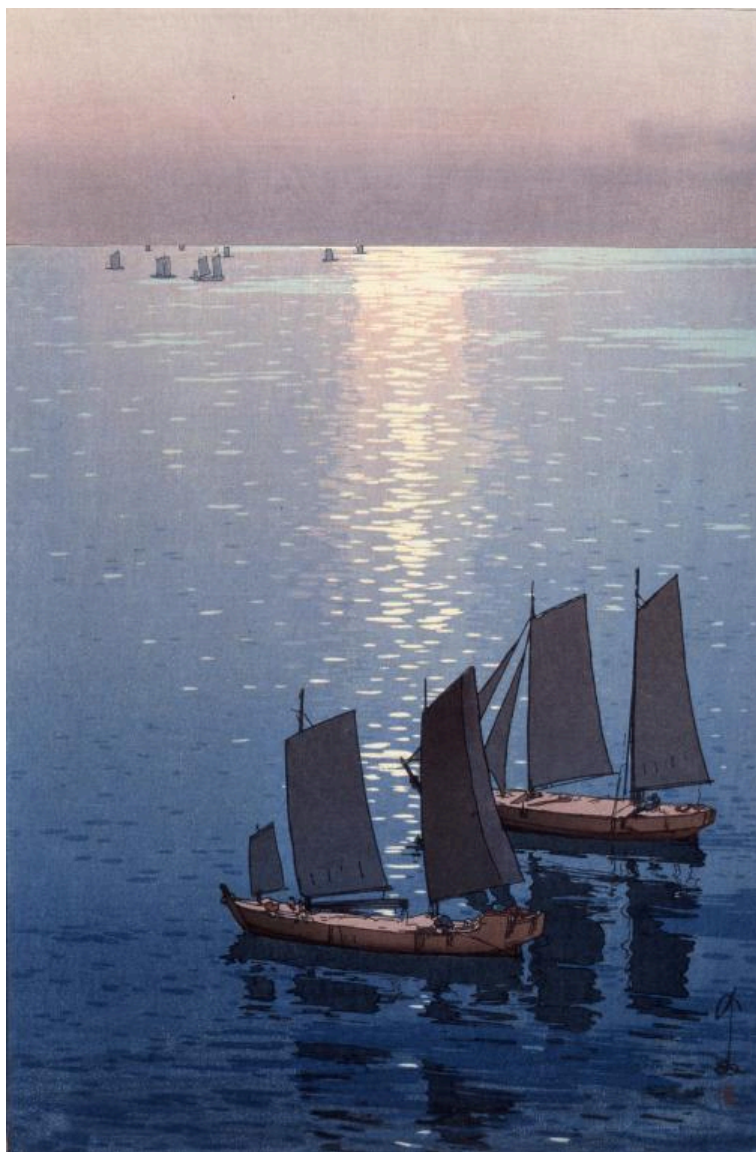


吉田博木版画展



2018年7月20日 | 金 | - 8月28日 | 火 |
MOA 美術館

吉田博（1876－1950）は、明治から昭和にかけて、水彩画、油彩画、本版画の分野で西洋画壇を牽引した画家として知られ、太平洋画会の中心人物として活躍しました。44歳で自身の下絵による木版画が出版された後、49歳にして初めて自身の監修による木版画の作品を発表し、西洋の写実的な表現と日本の伝統的な木版画技法を統合した新しい木版画の創造をめざしました。

博は、こよなく自然を愛し、自然のなかにこそ美があるとし、自然とそれを直接見ることでできない人との間にたつて、その美を表わすことを画家の使命としました。博の作品のほとんどは風景画で占められており、その取材範囲は、日本はもとより世界各国に及んでいます。

本展では、富士山の雄大な姿を描いた「富士拾景」や刻一刻と変化する海の表情を表した「瀬戸内海集」をはじめ約80点を紹介します。

見どころ

1. 同じ版木を用いて色を替える

「帆船」シリーズなどに見られるように、朝、霧、夕、夜など、時間帯や大気の状況の変化を同じ版木を用いて色を替えることによって表現する作品があります。



瀬戸内海集 帆船 朝
大正15年（1926）



霧



夕

2. 他に類を見ない摺数

平均して30回以上、多いもので70回を超え、「陽明門」では96回の重ね摺を施し、精緻で写実的な表現を実現しています。



陽明門
昭和12年（1937）

3. 標準の倍に近い「特大版」

木版画では摺りの際、紙に水分を含ませるため、特大の紙は伸縮が大きくなり、線画のズレが生じやすくなりますが、この点を克服し、迫力溢れる大作が知られています。



富士拾景 朝日
大正15年（1926）

吉田博について

◆欧米外遊

博は、明治9年(1876)、久留米藩士・上田東の次男として、久留米市に生まれました。明治20年(1887)に福岡に移り、その後中学修猷館に入学すると、版画教師の吉田嘉三郎にその画才を認められ、明治24年(1891)、吉田家の養子になりました。明治26年(1893)、17歳で京都の田村宗立(1846-1918)の門下生となりましたが、翌年上京して小山正太郎(1857-1916)の主催する画塾・不同舎に入門し、本格的な画業をスタートさせます。明治32年(1899)、23歳の時、描き溜めた水彩画を携え、1か月分の生活費のみを持って、後輩・中川八郎とともに決死の渡米を行い、デトロイト美術館等での展示即売会の大成功によって資金を得て、ヨーロッパを巡って2年後に帰国しています。さらに2年半後には、のちに夫人となる義妹ふじをと共に再び渡米し、3年以上をアメリカ、ヨーロッパで過ごして帰国しています。洋行が珍しかった時代の外遊によって古今の西洋美術に触れると共に写生によって大いに画技を磨き、帰国後、油彩画の分野で文展や帝展の審査員を務めるなど近代西洋画壇の中心人物として活躍しました。

◆木版画との出会い

大正9年(1920)、44歳の時、版元渡辺庄三郎との出会いにより、初めての木版画「明治神宮の神苑」を出版し、その後も「帆船」「穂高山」などの木版画を出版します。当初は版画の下絵制作程度の関わりでしたが、大正12年(1923)の関東大震災後、被災した太平洋画会会員救済のための作品販売を目的とする3度目の渡米を機に木版画に対する認識の変化が生まれています。米国で日本の版画が大変な評判であることを知り、日本の伝統を生かした新しい木版画の必要性を実感するに至りました。

帰国した大正14年(1925)、49歳の時、初めて自ら監修した版画「アメリカの部」6点と「ヨーロッパの部」11点を発表し、その後の後半生は油彩画と並行し木版画の制作にも情熱を傾けました。

木版画の制作にあたって、彫りや摺りは優秀な職人を使いながらも常に傍らで厳しく指導して監修に当たり、そのようにして完成した作品には「自摺」の刻印を押しています。また、職人を指導するためには自分自身も職人以上の技術を身につけなければならないとして努力を重ね、中には自ら彫刻刀を握った作品もあります。

吉田博の自然へのまなざし ◆海外の風景

合計7年間を超える3度の欧米外遊による写生を元に、「グランドキャニオン」「ナイアガラ瀑布」「レニア山」など多くの海外の風景を木版画として制作しています。昭和5年(1930)には長男遠志と共にインド・東南アジアへの写生旅行を行い、翌年「ラングーンの金塔」「タジマハルの庭」「ウダイプールの城」等インド、東南アジアを描いた木版画を発表しています。昭和12年(1937)には、「昌慶宮」「北陵」「奉天市場」など朝鮮・満州の部12点を発表し、昭和12年から3年間は、従軍画家として中国に派遣され、その成果をもとに「蘇州」などを発表しています。世界を旅した博が捉えた美しい海外の風景の数々が木版画に表現されています。

◆山の風景

終生山岳に親しんだ博は、山を題材とした作品を数多く残すと共に『高山の美を語る』を著し、画家の視点から観た山の美について語っています。博は、30代から50代にかけては、夏、日本アルプスや各地の山々でテントを張って山岳風景の写生に勤しみ、秋から春にかけて油彩や版画制作に没頭する生活を続け、木版画においては「日本アルプス十二題」や「富士拾景」としてその成果を発表しています。また、日本国内にとどまらず、「レニア山」や「マタホルン山」など海外の山についても多くの作品を発表しています。また60歳の時、日本山岳画協会を結成するなど、山岳美に対する強い愛着が看取れます。

◆水の表現

博の作品には、溪流、池、湖、海など様々な水が多くの作品で描かれています。それらの水面に風景や建物が映った様子を描くことも多く、多数の版木を用いた博独特の手法により、木版画とは思えない精緻で写実的な表現に成功しています。また、「瀬戸内海集」のうち「光る海」では、博自らノミをもち夕陽が作り出す海面のきらめきを表現しています。

主な出品作品

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. グランドキャニオン | 大正 14 年 (1925) |
| 2. ナイアガラ瀑布 | 大正 14 年 (1925) |
| 3. 富士拾景 朝日 | 大正 15 年 (1926) |
| 4. 富士拾景 吉田村 | 大正 15 年 (1926) |
| 5. 日本アルプス十二題 黒部川 | 大正 15 年 (1926) |
| 6. 瀬戸内海集 光る海 | 大正 15 年 (1926) |
| 7. 瀬戸内海集 帆船 朝 | 大正 15 年 (1926) |
| 8. 中房川奔流 | 大正 15 年 (1926) |
| 9. 陽明門 | 昭和 12 年 (1937) |



〔図 1〕



〔図 2〕



〔図 3〕



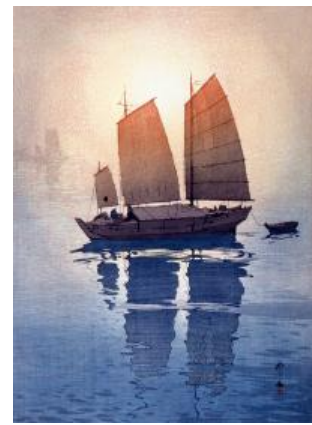
〔図 4〕



〔図 5〕



〔図 6〕



〔図 7〕



〔図 8〕



〔図 9〕

イベント

講演会「吉田博の自然へのまなざしと木版画の世界」と摺りデモンストレーション

講師：吉田 司（版画家・吉田博令孫）

日時：2018年7月28日（土）13:30-15:00

会場：MOA美術館 スタジオ

参加費：無料（入館料は別途必要）

定員：100名（先着順）

当館学芸員による美術セミナー

日時：2018年8月4日（土）、11日（土・祝）13:30-14:00

会場：MOA美術館 能楽堂

参加費：無料（入館料は別途必要）

開催概要

展覧会名：吉田博木版画展

会期：2018年7月20日 | 金 | - 8月28日 | 火 |

会場：MOA美術館 展示室 1-3

〒413-8511 熱海市桃山町 26-2 TEL: 0557-84-2511

URL: <http://www.moaart.or.jp>

開館時間：午前9時30分 - 午後4時30分（入館は午後4時迄）

休館日：木曜日

観覧料：一般 1,600（1,300）円 / 高大生 1,000（700）円・要学生証 / 中学生以下無料

65才以上 1,400円・要身分証明

※（ ）内は 10名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者（1名のみ）半額

※前売り券は、お近くのコンビニエンスストア（セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクス）、チケットぴあ、イープラスでもお求めいただけます。

交通：JR 東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車

駅前バスターミナル⑧番乗り場より MOA 美術館行 約7分終点下車

広報画像をご希望の方は、必要事項をご記入のうえ、MOA 美術館まで FAX にてお申し込みください。

FAX 0557-84-2570 MOA 美術館 広報宛て

広報画像申込書

MOA 美術館 広報画像を希望します。

貴社名

ご所属

お名前

ご住所

TEL

FAX

E-mail

媒体名

掲載予定日/放送予定日

年 月 日 発売/放送予定

掲載概要、予定文字・ページ数など
(お分かりになる範囲でお願いいたします。)

貸出し希望画像番号

広報画像

1

2

3

4

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)

MOA 美術館

広報担当：泉山/中間

TEL 0557-84-2567

Email

s-izumiyama@moart.or.jp

m-nakama@moart.or.jp

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべて MOA 美術館を紹介する場合に限りです。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記します。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行います。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記入いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。